

## 『歩いてわかった地球のなぜ！？』 訂正表

本書に訂正がございました。深くお詫び申し上げますとともに、下記の通り訂正させていただきます。

## p.173 7行目 「流水はなぜ押し寄せる ―知床の生態系」

訂正前	1944年に発生した難破船船長による船員の人肉食事件は、冬の知床が完全に外界と隔絶した世界であることを示す。難破した船から脱出し、雪のなかの番屋で身を寄せ合っていた7人の船員は、寒さと飢えで次々に力つきていく。1人が死ぬと、生き残った者は死者の体から肉を切り出し、食べ合う。最後まで生き延びたのは、船長ただ1人だった。
訂正後	1944年に発生した難破船船長による船員の人肉食事件は、冬の知床が完全に外界と隔絶した世界であることを示す。座礁した船から脱出し、雪のなか無人小屋で2か月過ごした船長が、死んだほかの船員の体から肉を切り出し、食べていたとされる事件である。船長が人里に脱出できたのは、流水が接岸する時期に入り、押し寄せた流水伝いにたまたま道が開けたからである。

## p.193 9行目 「氷河はなぜ劔岳・立山にある！？ ―黒部源流の自然と開発」

訂正前	作業員の宿舎が深夜、爆風に直撃された。爆風はコンクリート5階建ての宿舎の2階より上部をもぎ取り、寝ていた84名の作業員を入れたまま吹き飛ばした。その部分は、比高78mの山を一つ飛びこえ、黒部川の本流をも飛びこえて、580m先の岩壁に激突した。宿舎の残骸と遺体が黒部川の谷底で発見されたのは、春になってからである。黒部でおこるこのような爆風は、泡雪崩とよばれる。泡雪崩は、雪粒に閉じ込められ圧縮された空気が破裂しながら流下する爆風で、その速さはマッハ3、時速3600kmに達する。この泡雪崩は、翌年の冬にも28名の犠牲を出す惨事を引きおこした。300本の巨木が引きちぎられて宙高く舞い上がり、それが作業員宿舎に突き刺さったのである。
訂正後	作業員の宿舎が深夜、爆風に直撃された。事故を描写した『高熱隧道』によれば、事故は次のようである。「爆風はコンクリート5階建ての宿舎の2階より上部をもぎ取り、寝ていた84名の作業員を入れたまま吹き飛ばした。その部分は、比高78mの山を一つ飛びこえ、黒部川の本流をも飛びこえて、580m先の岩壁に激突した。宿舎の残骸と遺体が黒部川の谷底で発見されたのは、春になってからである。」 黒部でおこるこのような爆風は、泡雪崩とよばれる。泡雪崩は、雪粒に閉じ込められ圧縮された空気が破裂しながら流下する爆風で、その速さはマッハ3、時速3600kmに達する。雪崩のほかにも、凍った細い運搬道（写真3）から作業員が転落する事故も頻発した。